

2024 年度定時評議員会議事録

1. 日 時：2024 年 6 月 15 日（土） 11：00 ～14：15
2. 場 所：日本青年館ホテル 8F ルームブルーおよび ZOOM を使用したオンライン会議
3. 出席状況

出席評議員 27 名
出席理事 14 名
出席監事 1 名
出席オブザーバー 16 名

・日本青年館ホテル 8F ルームブルー

評議員

山本俊貴、鈴木一行、井上宏 以上 3 名

理事

馬場益弘、中澤信夫、富田三和子、中村隆夫、安藤淳、望月宣武、中村和哉、船澤泰隆
以上 8 名

監事

上野保 以上 1 名

オブザーバー

浅田総務委員長、増田ルール委員長、黒川国スポ委員長、久保田キールボート強化委員長
藤井ルール副委員長、斉藤威役員候補推薦管理委員長、多賀コンプライアス委員長
以上 7 名

・オンライン参加（自宅より）

評議員

岡崎真一郎、森谷茲允、笠原賢一、飯島洋一、安藤直道、石丸寿美子、松石万希子、長谷川正也、
大西治夫、山本伸善、坂文彦、玉置純、岩崎洋一、山口慶一、古賀正行、岩崎裕児、九富潤一郎、
岡村勝美、西村隆、徳田恭紀、外尾竜一、秋山淳、大森慶子、加藤重雄 以上 24 名

理事

宮野幹弘、尾形依子、鈴木祥子、萩原ゆき、大垣俊朗、岩瀬喜貞 以上 6 名

オブザーバー

中川顧問、松田財政委員長、平松事業開発委員長、坂口外洋通信委員長、
中村健一オリンピック強化副委員長、地川財政委員、吉田アスリート委員、田中葉子、国枝信哉
以上 9 名

4. 議事の経過及び結果

対面開催と ZOOM 併用でのハイブリット方式で開催した。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に

伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに出来る仕組みになっていることを参加者各位に確認し、議案の審議を下記のとおり開催した。

(定足数の確認)

評議員 46 名中、出席 27 名で、定款第 19 条に基づき定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

定款 18 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は井上宏評議員に決定し、2024 年度定時評議員会開催の宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、笠原賢一、岡村勝美の両評議員が任命され、承認された。

5. 議案

1) 2023 年度事業報告(案) 及び決算報告(案)

安藤専務理事から資料に基づき、2023 年度事業報告(案)について説明があった。

2023 年度は、ウィズコロナの新しい日常の中で連盟としての活動を再スタートさせた。また、目まぐるしく変化している国際情勢や経済環境も、スポーツ界に様々な影響をもたらした。セーリング界も、新しい時代と新しい生活様式、多様な価値観に合わせて変わって行かなければならないとの課題認識の下、2022 年度には馬場益弘会長の新体制のもとで、組織基盤強化や勝ちに行くコーチング体制、日本パラリンピック委員会への加盟への取り組みなどの活動を開始したが、2023 年度は連盟中期基本方針に基づいた具体的活動を更に加速、推進した。

2023 年度予算策定においては、新型コロナウイルス感染症が終息することに伴う事業活動の活発化が可能となることを前提に、パリ五輪に向けた選手強化や普及指導などの事業を拡大させる一方で、2022 年度において新規の協賛金獲得額が当初予算比大幅に未達となったこともあり、2023 年度の収支については、厳しい財政状況が続くことが予想されるため、2023 年予算案も特定費用準備金積立を取り崩すことで対応するが、財政健全化に向けた取り組みを継続した。なお、当連盟における日本スポーツ振興センター(JSC)様からの助成金を受けた事業において、委託業者への発注・業務委託契約締結に際し、当連盟決裁手続き等に関する不備が2022年度に発生した件については、再発防止に向けた改善策の実施と当連盟内への周知について、当連盟常任委員会・財政委員会・当連盟事務局において、業務委託先の選定および発注の手続き、業務委託における契約書締結の要否、支払い申請における決裁権限等の当連盟としての規程・ルール・手続きの見直しを行い、その運用を開始したところである。

中央競技団体向けガバナンスコードへの継続的対応について、このような状況の中で、スポーツ庁が定める中央競技団体向けガバナンスコードが求める事項のうち、連盟として喫緊の課題である役員候補者選任規程の見直しを行い、2024 年度に予定している役員改選は、この見直し後のルールに基づき実施している。

組織基盤強化事業の進捗について日本スポーツ振興センター(JSC)助成事業である「スポーツ団体組織基盤強化支援事業助成」については、常任委員会の下に「経営企画室」を設置して、以下の事業を推進するとともに、事業全体の進捗管理、JSC への報告等を行った。

計画①：ビジョン・中長期戦略の改訂のための基礎調査(会員アンケートの実施)

計画②：組織情報プラットフォームの構築

計画③：最新技術を活用した新たな観戦体験の提供

計画④：サステナビリティに関するアクティベーションの調査・トライアル

計画⑤：DEI 企業研修に関するアクティベーションの調査・トライアル

計画⑥：管理・専門人材の採用・活用（プロジェクトマネジメント・広報・マーケティング・セールス）

各計画に基づく基礎調査や、情報プラットフォームの構築、観戦体験の提供、協働型アクティベーションプランの立案・トライアル等は概ね順調に進んでいる。他方で、事業を進める中で、組織基盤や運営機能の脆弱性を再認識、計画時には把握していなかった新たな課題を認識し、次年度に積み残した。また、マーケティング活動の不足により、新たなスポンサー獲得には至っていないものの、次年度へ向けたスポンサー獲得の確度は向上している。

松田財政委員長から資料に基づき、2023 年度決算（案）について説明があった。

2023 年度決算報告書（案）について、2024 年度に開催のパリオリンピックに向けた準備の年である 2023 年度決算の規模は、2022 年度から若干の増加となりました。

正味財産増減計算書について、2023 年度の一般正味財産増減については、経常収益が 421.0 百万円となりましたが、前年 2022 年度（412.4 百万円）に対し 102.1%、前々年 2021 年度（381.4 百万円）に対し 110.4%の規模となった。経常費用は 2023 年度では 438.2 百万円となりましたが、これは前年 2022 年度（427.2 百万円）に対し 102.6%、2021 年度（411.6 百万円）に対し 106.5%の規模となります。この結果、当期一般正味財産増減額は△17,232 千円（減少）となり、一般正味財産期末残高は 208,837 千円となった。指定正味財産増減額については 1,601 千円増加し、指定正味財産期末残高は 18,107 千円となった。一般正味財産と指定正味財産を合計した 2023 年度の正味財産期末残高は 226,944 千円となり、前年度比△15,630 千円（減少）となった。収支相償の観点については、公益目的事業会計における当期経常増減額が△15,031 千円（減少）であった点に対し、後述の特定費用準備金（パリ五輪）積立資産から 15,000 千円を取り崩すこととしている。

収支計算書について、2023 年度の JSAF 全体の事業活動収入合計は 422,569 千円となり第 2 次補正予算（以下、「予算」）比△39,781 千円（減少）（対予算 91.4%）となった。予算との差異の主な内訳として、補助金等収入が△14,595 千円（減少）した一方、受取負担金収入は予算比 5,893 千円増加している。会費収入については予算比 1,322 千円増加した一方、寄付金収入と協賛金収入はそれぞれ予算比△3,388 千円（減少）と△1,440 千円（減少）している。事業収入全体の合計で予算比若干の増加（894 千円）となったが、その内訳として広告料収入とその他委託事業収入がそれぞれ 2,806 千円と 2,000 千円の増加、資格認定料収入が△2,215 千円（減少）している。2023 年度の JSAF 全体の事業活動支出合計は 435,707 千円となり予算比△58,990 千円（減少）（対予算 88.1%）となった。事業費支出については、予算比△32,980 千円（減少）した。内訳で予算比減少した費目として、渡航費、滞在費、旅費交通費の支出が合計で△15,618 千円（減少）、委託費支出が△17,361 千円（減少）している。一方、予算比増加した費目は、賃借料（+37,235 千円）、諸謝金（+20,852 千円）、支払助成金支出（+36,181 千円）、海外大会参加費支出（+14,051 千円）となった。

管理費支出は合計で予算比 5,205 千円増加しているが、そのうち業務委託費支出で 7,702 千円増加

している。これにより、事業活動収支差額は▲13,138千円（支出超過）の結果となり、予算時点の▲32,347千円（支出超過）と比較すると約19百万円のバランス改善となった。投資活動収支については、収入側で16,699千円の特定期預金取崩を行うこととしたが、その内訳は次のとおりです。

◆パリ五輪準備に向けての特定費用準備金積立資産（積立総額：150百万円を理事会承認済。2022年度末残100百万円）から15百万円を取り崩し（2023年度末残高85百万円）

◆環境事業積立資産（2022年度末残10,691千円）から1,699千円を取り崩し。

一方、投資活動支出として、下記を含めて11,649千円を計上している。

◆オリンピック強化積立資産として2,300千円を積立（2023年度末残8,115千円）。

◆環境事業積立資産として1百万円を積立（2023年度末残9,992千円）。

◆固定資産（什器備品）取得支出として7,609千円計上。

これらの結果、投資活動収支差額は+5,052千円となった。2022年度の財務活動収支および予備支出の計上はありません。以上により、2022年度決算における当期収支差額は▲8,087千円（支出超過）となり（予算▲10,462千円からは約2.3百万円のバランス改善）、これに前期繰越収支差額の111,027千円と合計すると、次期繰越収支差額は+102,941千円となる。

事業別・委員会別収支について2022年度の公益事業の収支については、管理費・その他および各委員活動での収入が443,165千円、支出が455,597千円、当期収支差額が▲12,432千円の支出超過となったが、予算時の▲29,157千円の支出超過額からは16,725千円赤字幅が減少している。

管理費・その他の収入面についての合計は97,956千円となり（予算：101,547千円）、このうちメンバー会費収入は48,932千円となった（予算：48,400千円）。支出面の合計は97,184千円となり、予算比では6,813千円増加したが、これは助成金支出（支援寄付金）、会計士等報酬、雑費および傷害保険料等の上振れによるものである。管理費・その他における収支は+772千円となり、予算時の+11,176千円からプラス幅は約10百万円減少しているが、予算時では他からの繰入金収入を計上していたことによるもの。

コーポレート系の各委員会（総務委員会、財政委員会、広報委員会、レディース委員会、国際委員会、アスリートの各委員会）の2023年度の収入は6,555千円、支出は14,868千円と▲8,313千円（支出超過）となった。広報委員会については、国際大会等準備委員会から2,200千円の繰入金収入を計上している。コーポレート系委員会を除いた各事業系委員会の2023年度の収入合計は436,610千円、支出合計は440,729千円となり▲4,119千円（支出超過）になった。

経営企画室について、2023年度は組織基盤強化関連で31,250千円のJSC助成金収入を計上した。

国際大会等準備委員会について、2023年度はENEOS協賛による関連事業が実施され、収入、支出のそれぞれで12,435千円と9,199千円を計上した。

JSAFとしての寄付金・協賛金は一旦国際大会等準備委員会で受け入れた後、事業の内容に応じて各委員会（オリンピック強化、広報、パラセーリング、レースマネジメント）に対し計21,745千円の繰入支出を行っている。

オリンピック強化委員会については、収入は予算比229千円減の206,501千円、支出は同じく6,639千円減の199,892千円となり、この結果、同委員会の当期収支差額は+6,609千円となった。

収入面では第2次補正予算から補助金等収入が減少したものの、負担金収入や協賛金収入の増加と国際大会等準備委員会からの繰入増でカバーしている。一方支出面では予算比その他雑役務費および

賃借料がそれぞれ 10.7 百万円、5.8 百万円減少している。

貸借対照表の流動資産については、147,770 千円と前年度比△12,925 千円（減少）しているが、そのうち現預金は前年度比△50,544 千円（減少）し 58,609 千円、未収金が 38,494 千円増加し 83,260 千円を計上している。これは、助成金の入金に先行して各事業の支払を行っていることが主たる要因である。固定資産は、基本財産定期預金 10 百万円は前年度から増減なく、特定資産として 116,035 千円を計上（前年度比△12,661 千円）、その他固定資産 9,282 千円（前年度比+4,612 千円）を加え、固定資産合計で 135,317 千円（前年度比△8,049 千円）を計上している。これらの結果、資産の部については、前年度比△20,974 千円（減少）となり 283,087 千円を計上した。流動負債では未払金が前年度比△6,516 千円（減少）し、固定負債（退職給付金引当）と合わせた負債合計で 56,142 千円（前年度比△5,343 千円）となった。これらの結果、正味財産は、前年度比△15,630 千円減少し 226,944 千円となり、その内訳は指定正味財産が 18,107 千円、一般正味財産が 208,837 千円となった。

2023 年度は、パリ五輪に向けた準備となる事業年度でしたが、助成金収入が減少する傾向の中、オリンピック強化委員会をはじめとした各委員会における事業内容の見直しや収入ソースのあらたな検討もあり、第 2 次補正予算のレベルの事業活動収支から約 17 百万円程度プラスに改善し、特定費用準備金積立取崩の規模も 15 百万円（予算時：21,135 千円）に抑えた結果、当期収支差額ではほぼ予算通りの決算（▲8.087 千円の支出超過）となった。

助成金、JSAF 会員数、寄付金や協賛金の確保等の課題があるなか、JSAF としての健全な財政維持のためにも、引き続き収支の状況を注視のうえ、事業方針・計画に沿った資産管理を行っていく。

上野監事から、監査報告があり内部規定上の決済について問題を指摘したこと以外、特に問題がなかったと報告があった。

2023 年度事業報告（案）は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

2023 年度決算（案）は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

2) 評議員選定委員会の委員変更について

浅田総務委員長から、評議員選定委員会の委員変更について、伊藤亮一氏から山本俊貴氏に変更すると説明があった。

評議員選定委員会の委員変更について、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

3) 2024-2025 年度役員候補者選任について

斉藤威役員推薦候補管理委員長から 2024-2025 年度役員候補者選任について資料に基づき、説明があった。

会長推薦候補の馬場益弘は棄権、反対 0 名、満場一致で承認された。

全国加盟団体代表者会議による理事候補者（敬称略）は、安藤淳、船澤泰隆、宮野幹弘、古屋勇人、鈴木祥子、萩原ゆき、長田美香子、濱野文の 8 名は、棄権、反対 0 名、棄権 0 名、満場一致で承認さ

れた。

水域推薦による理事候補者（敬称略）は、尾形依子、石川彰、伊藤亮一、井上貴支、川戸仁、岩瀬喜貞、村田光宏、側田晴楽、西尾隆、中村和哉、平岡志帆、大槻映幸、五十川浩司、田中葉子の14名は棄権、反対0名、満場一致で承認された。

会長推薦理事候補者（敬称略）、中村隆夫、富田三和子、望月宣武、地川浩二、鷹野淳子の5名は棄権、反対0名、満場一致で承認された。

委員会推薦理事候補者（敬称略）、吉田愛、佐藤公俊の2名は棄権、反対0名、満場一致で承認された。

外部推薦理事候補者（敬称略）、秋田正紀、土肥美智子の2名は棄権、反対0名、満場一致で承認された。

4) SAGA2024国スポセーリング大会ご挨拶について

「SAGA2024 国スポセーリング大会」実行委員会、中島課長、新郷様から SAGA 国スポセーリング競技について資料に基づき、説明があった。

5) 評議員からの質疑・報告について

鈴木一行評議員から、6年間評議員を務めさせていただきましたが、今回で退任いたします。評議員を離れるにあたり現行の評議員会の形骸化への苦言と JSAF の活性化を願い意見を述べさせていただきます。現在理事の人数約 30 人に対して評議員が約 50 名、公益財団法人の評議員は大変重い義務と責任があります。

特に国の予算を使う立場では不正経理でなくても不適切経理で大問題になります。JSAF の過去の歴史でもまた他のスポーツ団体でも発生しておりもう一度どうすれば防げるか評議員も自ら国の予算を使うことについて理解してください。スポーツ仲裁機構が URL にあるような例示を出しております。

https://www.jsaa.jp/ws/compliancereport2018_4_3_6.pdf

以上の責務にかかわらず 6 年間の評議員会でほとんど質問、意見がでてきませんでした。形骸化していると言わざるを得ません。是非評議員会が機能するために本日会議で質問、意見をお願いします。

今後人口の減少などスポーツ団体のおかれる環境が厳しくなる可能性があります。評議員の皆様におかれまして過去 JSAF に貢献されてきた方々と思っております。他方評議員として質問、意見も出てこない現状に危惧しております。機能しない評議員会であれば縮小も議論の対象と考えております。

JSAF の将来のために御力、第 12 期の決算書の貸借対照表における 現金預金の前年度との比較で 50, 544 千円減少しております。報告書のなかに一部記載がありますが 収支の背景、時期についてご説明をお願いします。JSAF において今後もキャッシュフローが重要と考えております。上記の件について、ご説明いただきたいと質問があった。

安藤専務理事から、評議員の基本的な職務は、鈴木評議員がご説明されている通り、理事を含めた役員（監事、会計監査人など）の業務が財団の運営方針に沿ったものかを評価することです。違反があれば、評議員会においてその役員を解任することもできます。

一方で、現在の JSAF における評議員の選任状況は、スポーツ庁が定めるスポーツ団体ガバナンスコ

ードが要請している外部評議員、女性評議員比率の目標割合を設定できておらず、また、その選任方法においても評議員について定年制を導入していないなど、必ずしもこのスポーツ団体ガバナンスコードが求めている形を実現できておりません。

JSAF における評議員の選任状況は、以上のような課題を抱えているわけですが、評議員会における評議員各位からのご発言がこれまできわめて少なかった事実を踏まえ、評議員各位の責任、権限について、これまで多くの評議員において必ずしも理解を深めていただけていなかったのではないかと考えております。

今回の鈴木一行評議員のご意見書に記載されている問題提起は、まさに、これら公益法人法に定める評議員の責任と権限を、すべての評議員が理解され、理事を含めた役員（監事、会計監査人など）の業務が財団の運営方針に沿ったものかを評価することができるようになるためには、評議員各位が、法律が要請している評議員の責任、権限について、改めてより深くご理解いただく必要があると考えております。

このため、まずは、本日開催を予定している新任理事を対象としたコンプライアンス研修に、評議員の皆さんも受講していただくようご案内させていただくとともに、年に一回の評議員会の場だけではなく、いろいろな機会を活用して、JSAF の事業執行状況をご説明し、ご意見、ご質問をいただくことにも取り組んでまいります。

また、評議員の選任方法についても、スポーツ団体ガバナンスコードが示す趣旨を踏まえ、次回改選時までには何らかの改善方策を講ずることとしてまいりたいと考えております。

鈴木一行評議員のご意見を真摯に受け止め、JSAF の事業運営上必須である、評議員会が本来の役割を実現するために、今後ともいろいろな取り組みを行ってまいりますこととお約束し、鈴木様からのご意見に対する安藤専務理事からの回答があった。

大原評議員から、JSAF 会員増強に関する質問書の提出があった。JSAF 中期計画において会員増強は一つの柱となっており、今後も多方面からアプローチされるものと思います。加盟団体としても会員増加を目指しております。特別加盟団体については、ホームページに艇種別団体として 40 団体、階層別団体として 9 団体、クラブ等の団体として 29 団体が掲載されています。JSAF 運営規則第 8 条に加盟の条件が規定され、第 6 条に加盟団体の義務が規定されていますが、加盟時点では要件を満たしていたものの、現時点では実体のない特別加盟団体や JSAF 会員数 20 名未満の団体があると思われますので、今一度、運営規定に則り会員登録を促すなどの対応をされては如何でしょうか。例としてエンタープライズ協会がありますが、実際には存在していない団体と思いますと質問があった。

安藤専務理事から、JSAF 運営規則で毎年、事業報告、役員の報告を行うことになっているが、実態は提出がされない団体もある。運営規則を元に各加盟団体の状況を確認すると共に各加盟団体の活性化への取り組み JSAF 全体への会員増強へと繋げていきたいと回答があった。

6) 専門委員会からの報告他

業務執行理事報告について、安藤専務理事から概要の説明があった。

中村副会長から、資料に基づき連盟名称/呼称変更について、理事会で 1 年かけて議論し来年の評議

員会で名称変更/呼称変更について提案したいと資料に基づき説明があった。

中村副会長から、江の島オリンピックウィークについて、資料に基づき説明があった。

富田副会長から、第33回オリンピック競技大会セーリング競技日本代表選手壮行会のご案内について、資料に基づき説明があった。

中村副会長から、資料に基づき、経営企画室の事業について説明があった。

望月常務から、経営企画室の情報プラットフォームの件について詳細説明があった。

中村健一オリンピック強化副委員長から、パリ2024五輪大会代表・代表補欠の決定について資料に基づき報告があった。

藤井ルール副委員長から、資料に基づき、セーリング競技規則の改訂に伴う対応について報告があった。

黒川国スポ委員長から、資料に基づき、SAGA国スポ2024、滋賀国スポリハーサル大会について報告があった。

坂口外洋通信委員長から、資料に基づき、JSAF海岸局、電波法改正に伴う対応などについて報告があった。

富田副会長から、資料に基づき、あさがおプロジェクトの活動報告について報告があった。

以上をもって、オンライン会議システム ZOOM を使用し終始異常なく、議事全部を終了したので、議長は14時15分に閉会を宣した。

2022年度定時評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2023年6月17日

会 長 馬 場 益 弘

議 長 井 上 宏

議事録署名人 笠 原 賢 一

議事録署名人 岡 村 勝 美